

あれこれふあ



ICHIKAWA LIBRARY

参考業務月報

2025 年 11 月号

発行：市川市中央図書館 編集：レファレンスカウンター 〒272-0015 市川市鬼高1-1-4 TEL047-320-3346

	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
11月	853	775	554	89	2	2,273	480	51	141	105	33	509	3,592
累計	6,646	4,603	5,060	473	27	16,809	4,050	407	1,224	975	337	4,215	28,017

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

レファレンス記録票から（こどもとしょかん編）



分類

質問と内容

K293 ギリシャに関する本をいろいろ見たい。

『ギリシャ』（ジェン・グリーン／著 グレグ・アンダーソン、コスタス・フラソプロス／監修 ほるぷ出版 2011）に地理や自然、歴史等の項目ごとに国の概要が解説されている。また、より多岐にわたる情報を提供するため、「ギリシャ神話」、「古代ギリシャ」、「ギリシャ神殿」、「世界遺産」、「オリンピック」、「ギリシャ文字」等に関する図書も併せて紹介した。

K388 青龍、白虎など方位に関するもので、子どもにもわかる本を探している。

『総合百科事典ポプラディア 9』（ポプラ社 2021）で「青龍」を調べると、p.161「中国で古代に信じられた4種の神（四神）のひとつ」と記載されている。さらに『総合百科事典ポプラディア 7』（ポプラ社 2021）p.219「四神」には「動物の姿をした方位を守る神」と説明があり、「青龍、白虎、朱雀、玄武」のイラストが掲載されている。「青龍」をキーワードとして所蔵検索し、『伝説の生き物大図鑑』（近藤雅樹／監修 PHP 研究所 2011）、『ビジュアル図鑑ドラゴン』（健部伸明／監修 カンゼン 2024）を紹介した。

K450 方位磁針の仕組みを知りたい。

『もののはかりかた大研究』（瀧澤美奈子／著 PHP 研究所 2012）p.50-51に「方位磁針」の説明あり。『先生教えて!理科のギモン』（野村勇／文進藤哲也／文 米村でんじろう／監修 あかね書房 2014）p.61-62「北極に磁石を置くと、どうなるの?」、『安全につかえる!理科実験・観察の器具図鑑』（横山正／監修 ポプラ社 2014）p.84-85に方位磁針の仕組みについて解説あり。他に、『コンパスが南をさすとき』（陰山聡／著 くもん出版 2020）も紹介した。

K778 パラパラ漫画はどうして動いて見えるのか?

『総合百科事典ポプラディア 13』（ポプラ社 2021）「パラパラアニメ」の項目に、「パラパラ漫画ともよぶ」と記載あり。「絵が実際に動いているのではなく、目の残像作用で動いているように見える。」と説明されている。『ぼくにも作れるアニメーション』（やべみつのり／作・絵 童心社 1997）によると、p.4「どうしてうごいてみえるの?」に、「目はほんの少しの間（1/16秒）、前に見たものが残像として目玉のおくにある網膜にのこっているそうです。だからつづけて変化した絵を見るとうごいてるように見えるのです。」と解説あり。『でんじろう先生の超ウケる実験ルーム』（米村でんじろう／監修 主婦と生活社 2008）には、p.66-67「くるくるアニメーション」の実験に関して、「動いて見えるわけ 人の視覚が短い時間におきる変化を見分けることができないからです。脳は、絵が連続した画面のようにコマの間の動きをつながるように補うために、まるで連続しているように見えてしまうのです。」と解説がある。以上により、パラパラまんがは目の残像作用によって動いているように見えることが確認できた。

🐞他にもこんな質問ありました（クイック・レファレンスから）



分類

質問

⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など

- K291 沖縄の家にあるシーサーについて調べたい⇒『ふしぎがいっぱい!ニッポン文化 [1]-4 沖縄地方のふしぎ文化』（こどもくらぶ／編・著 旺文社 2009）p.30-31「沖縄の民家の屋根には、どうしてシーサーがいるの?」、『シリーズ戦争 語りつごう沖縄 1 沖縄県の自然と文化』（安斎育郎／文 監修 新日本出版社 2018）p.16-17「沖縄の魔よけシーサー」について、『いまこそ、沖縄』（行田稔彦／著 新日本出版社 2014）p.168-169「沖縄といえば、シーサーを据えた赤瓦の屋根。なぜシーサーなの?」に、シーサーの由来等について解説あり。
- K361 小学5年生が、対人関係が上手にできるようになるための簡単な本を探している⇒「友だち」「気持ち」などに関する図書の中で、イラストが多くわかりやすいものを紹介した。『友だちづきあいってむずかしい』（オナー・ヘッド／文 小林玲子／訳 小林朋子／日本語版監修 岩崎書店 2021）、『もうモヤモヤしない!気もちの伝え方』（名越康文／監修 日本図書センター 2019）、絵本『ころべばいいのに』（ヨシタケシンスケ／作 ブロンズ新社 2019）。
- K385 子どもに理解できるような冠婚葬祭の本⇒『心をこめて春夏秋冬』（スギヤマカナヨ／作 あすなろ書房 2010）、『子どものマナー図鑑 5』（峯村良子／作・絵 偕成社 2000）、『伝統行事がわかる図鑑 5』（新谷尚紀／監修 ポプラ社 2011）を紹介。
- K488 公園で鳥の青い卵を見つけたので、何の種類なのか調べたい⇒『鳥と卵と巣の図鑑』（吉村卓三／著 鈴木まもる／絵・構成 林良博／監修 ブックマン社 2014）、『たまごの図鑑』（大木邦彦／文・構成 今泉忠明／監修 あかね書房 2020）により、ムクドリのお卵であることがわかった。
- K723 小学2年生でもわかるゴッホの伝記⇒『ゴッホの絵本』（ゴッホ／[画] 結城昌子／構成・文 小学館 1993）、『ゴッホとゴーガン』（高橋明也／監修 東京美術 2020）、絵本『ゴッホ』（キアラ・ロッサーニ／文 オクタヴィア・モナコ／絵 結城昌子／監訳 西村書店 2010）がある。
- E 最初は嫌っていたものを最終的には認め合うような、多様性・個性を大切にする絵本を探している⇒『にじいろのさかな』（マーカス・フィスター／作 谷川俊太郎／訳 講談社 1995）、『まっくろネリノ』（ヘルガ＝ガルラー／さく やがわすみこ／やく 偕成社 1973）、『くれよんのくろくん』（なかやみわ／さく・え 童心社 2001）、『あのとときすきになったよ』（薫くみこ／さく 飯野和好／え 教育画劇 1998）を紹介した。
- E 動物たちがみずたまりをのぞいている絵本を探している⇒「みずたまり」をキーワードとして絵本を検索したところ、『みずたまり』（なかのひろたか／さく・え 福音館書店 2011）、『みずたまり』（殿内真帆／作 フレーベル館 2016）、『みずたまり』（アデレイド・ホール／さく ロジャー・デュボアザン／え こみやゆう／やく 好学社 2019）などがあり、表紙の絵からデュボアザンの絵本が該当図書であることが確認された。
- E 1歳の赤ちゃん向けの食育につながる絵本、食べている様子がわかるとよい⇒『もぐもぐがじがじ』（中野明美／文 大島妙子／絵 福音館書店 2022）、『いただきます』（わたなべしげお／ぶん おおともやすお／え 福音館書店 1980）、『ももんちゃんあーん』（とよたかずひこ／さく・え 童心社 2007）、『おいしいね』（さかざきはる／著 WAVE 出版 2015）は食べている場面がある。
- E 水族館に行くので、幼児でも水族館についてわかる絵本はあるか?⇒『水族館』（ほりかわあやこ／さく 福音館書店 2021）、『ぴっかぴかすいぞくかん』（なかのひろみ／文・構成 福田豊文／写真 ひさかたチャイルド 2014）を紹介した。
- E 「赤と青のモンスター」という絵本はあるか?⇒『青いかいじゅうと赤いかいじゅう』（デイビッド・マッキー／作 きたざわきょうこ／文 アーニ出版 1989）を確認してもらったところ、この絵本であるとの回答を得た。